被造物によって知られる神

ローマ１：18～32

２０１２年２月
西九州伝道所
佐々木正明

プロテスタント・キリスト教が日本に入ってきてから、150 年が過ぎました。でも、日本のプロテスタント・クリスチャンの実数は、総人口の 0.2 パーセントもあるかどうかと言うところです。キリスト教の伝道は、日本では行き詰っていると言われています。その少ない人数の中に選ばれている私たちは、日本人に福音を語り、救いに導きいれるという、大きな責任と広い可能性の中にいるのです。

プロテスタント・キリスト教も、それより 300 年ほども前に入ってきたカトリックも、日本人の中に、福音に対する敵対意識を植え付けてしまいました。両者共に、植民地主義国家の手先として日本に到着したという一面があったために、徳川の時代も明治の時代も、日本の為政者はこれを敵とみなして排除しようと努力しました。

それだけでなく、宣教師たちは日本人の宗教を偶像礼拝とみなし、神に憎まれる敵、滅ぼされて当然のものと考えて激しく攻撃しました。旧約聖書に記された、神が偶像礼拝をするイスラエルを厳しく取り扱い、数千数万に及ぶ死者が出るほどの刑罰を与えた記事などから、間違って聖書を解釈し、偶像礼拝をしている人間を厳しく取り扱っても良いと考えたのでしょう。律法を与えられていたイスラエルに対する厳しい神の取り扱いを、間違って、律法を与えられていない異邦人にまで適用してしまったわけです。

そのような西欧宣教師たちの態度を始めとする、日本人や日本の文化に対するキリスト教の姿勢のために、またも、日本人はキリスト教を敵と考えてしまいました。自分たちの信仰、あるいは信仰と深く繋がっている習慣や、社会のしきたりをさげすまされ、喜ぶ人間はいません。日本人の多くは、キリスト教の良いところを見て尊敬する一方で、激しく嫌い、警戒しているのです。事実、キリスト教は日本人の日常の、何から何までたてついて嫌われています。クリスチャンは立派だけれど、自分の近くに居られると迷惑だというのが、クリスチャンを良く知る日本人の感覚です。キリスト教は、日本の社会生活になじ

まないのです。

異邦人に伝道しようとしたパウロは、自分も異邦人のようになり、異邦人の立場になって考えながら、福音を語りました。私たち日本人はパウロが伝道した当時の異邦人よりも、はるかに「ユダヤ文化とかけ離れた異邦人」なのです。日本人の立場に立って考えなければなりません。

私たちは今まで、西欧人に教えられた通りの聖書の読み方をし、西欧人に教えられたように聖書を理解し、西欧人に教えられたまま福音を受け入れ、西欧人に指摘されたとおりに、日本の文化を偶像文化とみなしてさげすんできました。日本に聖書がもたらされ、聖書に立つ教えをするというプロテスタントが来てから、既に 150 年。私たちはいま、西欧人に教えられたとおりのキリスト教で満足するのではなく、日本人として聖書を読み、日本人として考え、日本人として理解し、日本人として聖書に立ち、日本人に分かりやすく福音を説くことが、できるようにならなければなりません。

福音はもともと、全世界のすべての民族に与えられたものです。いま私たちは、福音をユダヤ的、ギリシヤ的、西欧的な理解の足枷から解き放ち、本当に世界的なもの、普遍的なものにしなければなりません。日本人のための福音、日本人に受け入れられる福音というのも、ただ日本人のためだけのことではなく、普遍的福音をより正しく理解し、福音を世界に伝えていくための大切な一歩なのです。

Ⅰ.　神について知りうることは明らかです。V.19

西欧から来たキリスト教は、聖書を持たない人は神を知ることはできないと強調しました。それはⅠコリントⅠ：19～21 のパウロの言葉を間違って解釈したためです。聖書によらなければ、またキリストを通して与えられた神の特別な啓示がなければ、救いをもたらしてくださる神を知ることができないと言うのが、ここでパウロが言っていることです。

しかし引用したローマ書のⅠ章では、パウロは基本的な神の理解について語って、異邦人も神を知ることができると言い、神ができるようにして下さったと教えているのです。それは神がお造りになった被造物を通して、つまり、自然を観察することによって可能だというのです。たとえ救いに至る知識は持てないとしても、神を知り、神を神として崇めることはできると言うのです。

私たちは、日本人を神について何も知らない人々であるとみなして、新しい神、外国の神、キリスト教の神を語るのではなく、昔から日本人が知っている神、日本人が敬い、崇

め、感謝し、礼拝してきた神について語りましょう。日本人も神を知っているのです。これはアテネにおけるパウロの説教とも一致します。（使徒の働き 17：27〜28）神が知ることができるようにしてくださったのです。

もちろん聖書の啓示を知らない日本人の知識は、当然おぼろげで、聖書で啓示されて知った私たちの知識とは、理解のレベルが違います。しかし、間違いなく、日本人も神を知っているのです。日本人はそのおぼろげな知識を大切にし、日本人独特の信仰心を培い養い育ててきました。

当然、日本人の神意識の中にはたくさんの間違いがあります。西欧キリスト教はそのような間違いや、おぼろげな神意識を激しく攻撃し、優越感に浸ってきたのです。しかし大切なのは、日本人はそのおぼろげな神意識、まさに本能的な神意識を大切にして来たということであり、イスラエル民族のように、愚かな偶像礼拝には陥らなかったという事実です。

律法を持ち、神の明らかな自己啓示を幾度も見ていながら、また何度も神の厳しい裁きを受けていながら、イスラエル人は偶像礼拝に陥り続けました。また、西欧キリスト教も聖書という神の啓示の書を持ちながら、ひどい罪を犯し続けています。アメリカのプロテスタント教会などは、まるで、「むさぼり」という偶像礼拝の総本山のようです。（コロサイ 3：5）そのような偶像礼拝を教会が率先して行って、人々がそれを行うことを容認しているために、アメリカはますます貧富の差が激しくなっているだけでなく、弱い立場の国々に対して経済的打撃を与え続けています。

日本人は聖書も持たず、神の自己顕現も体験もしていないのに、本能的に、創造者である神を大切にし、その栄光を認め、人間や鳥や獣や鳥や這うものの形に代えてしまうことはなかったのです。日本人は、神に似せて造られた人間の本質的性質を失わず、見えない神を、見えないままに礼拝してきたのです。アメリカから、むさぼりという偶像礼拝を学んで、それに陥りかけていることは事実ですが、まだ、歯止めがかかっています。

日本人に伝道しようとするならば、私たちは、他の民族のようには偶像礼拝に陥っていない日本人の宗教感覚を理解し、それを尊重しなければなりません。日本人の知らない神を伝えるのではなく、外国から来た神を紹介するのでもなく、日本人の習慣や信仰心を憎む神を持ち込むのでもなく、昔から日本にいてくださった神、日本人が昔から本能的に知っていた神、日本人が心の奥底に感じ、感謝をしていた神、日本を祝福しておられる神、日本の習慣や信仰心を認め、大切にしてくださる神としてお話したいものです。

Ⅱ．　日本人は神に見放されてはいません

人間が罪深い生活に陥ったのは、もちろん、アダムとエバが罪を犯したために、悪魔の支配の下にくだり、その中で人間社会を作り上げたためです。ところがパウロはここで、人間の罪深い生活は、ただそれだけによるのではなく、さらに、人間が神を神として認めず、その不滅の栄光を朽ちるものの姿に代えたために、神が人間を欲望のままに渡されたことによると語っています。

パウロは、神が人間を欲望のままに汚れに渡され結果、まず、同性愛という本来の人の道に反する行為に陥ったと責め、さらに様々な罪に迷い込んだと叱責しています。神との正しい関係が損なわれると、人間同士の正しい関係もゆがめられてしまうのです。現在の人間社会が罪に満ちているのは、ただ、アダムとエバの罪の結果、悪魔の支配の下に入れられてしまっただけではなく、その後の子孫たちが、神を神と認めず、その朽ちない栄光を朽ちる偶像に代えてしまったことによるのです。

ところで、自由に宣教ができる国なのに、クリスチャンがもっとも少ないと言われる日本が、また、世界でもっとも犯罪が少なく、平和な国であると言うのはどういうわけなのでしょう。まじめに考えたことがあるでしょうか。一人ひとりの日本人を見てもそれは言えることですが、国家として民族として、あるいは歴史を通して見ると、なお一層それは言える事です。日本人がキリスト教を受け入れない理由の一つは、日本という国が、なんだかだと言いながらも、多くのキリスト教国よりも安全で、犯罪も少なく、栄えているためです。なんで、あんな非人道的なことを散々やってきて、不正が横行し、犯罪も多いキリスト教国の、まねをしなければならないのかというのが、ひそかな感覚です。

カトリックの国々が、どれほど不安定で泥棒や犯罪が多いかは、あきれるほどです。イタリア、フランス、スペインなどヨーロッパの国々はもとより、中南米の国々、あるいはアジア唯一のカトリック国フィリピンを見てもすぐに分かります。プロテスタントの国々はカトリック国よりはよほどましです。聖書があるからでしょう。（普通のカトリック教会には、ほとんど聖書の教えがありません）でも、イギリスやオランダやアメリカなどのプロテスタントの国々が、カトリックの国々と同じように、どれほどひどい植民地政策をとり、いかに多くの人々を苦しめ、あるいは残虐に滅ぼしつくしてきたか、とても口では表現できないほどのものです。

日本も、第二次大戦のときなどに、他国、他民族に対してどれほど酷いことをしてきたかは、私たちが想像できないほどのものです。しかし、それらの日本人の犯罪は、キリスト教国が犯してきた数多くの犯罪に比べると、まさに言うに足りないほどです。それは日

本人が神を神として崇め、人や鳥や獣や這うものの姿に代えるようなことはしてこなかったからだと考えられます。パウロの記述から推論すると、日本人は、他の民族とは違って、神の栄光の姿を愚かな偶像に代えることはしなかったために、他の民族と同じように、あるいは他の民族と同程度に、神に見放されて欲望の中に突き落とされてはいないと、考えられるのです。

Ⅲ.　この日本人に聖書の神を伝える

　私たちは、日本人の心の底にあるまじめな宗教意識に気付くべきです。多くの日本人自身が気付いていないかもしれません。でも、日本人の心の底には、まじめな宗教心があり、正しい神についての認識があるのです。

　それは多くの日本人が、「神は存在しない」と言うことにも現れています。神はいないと言いながら、宗教を良いものとして認め、宗教や信仰心そのものを悪く言うことはまずありません。神は存在しないと言うのは、目に見えない永遠の神を説明しきれないから言う言葉であって、神の存在そのものを否定しきる言葉ではないのです。むしろ神の存在は、言葉や理屈ではとても説明できないほど高貴なものであるのに、その神を何とか説明しようとして作り出した多神教的な神々が、あまりにも馬鹿馬鹿しいために言う言葉です。心の底で感じている、目に見えない尊く気高い神を、馬や牛や狐や犬の神に代えることには耐えられないために、神はいないと言ってしまうのです。神はいないという言い方の背後には、神以上の存在、日本語の神という言葉では表現できない崇高な存在を感じる、気高い宗教感覚があるのです。

　この日本人の本能的神認識を、しっかりと認めて、天地創造の神を紹介してあげるのです。日本人の神意識の中で、正しい部分、まだ間違っていない部分をまず探し出し、認めてあげ、そこから、共通意識、共感をもってお話をすることです。

　まず多くの日本人が、自分たちが感じている以上に、正しい神認識を持っていることに、気付かせて上げましょう。日本人自身が、気付いていないのです。多くの日本人は自然の中に神が潜んでおれると感じています。それはまったく正しい感覚です。ただ、自然が神なのではなく、神が自然を造り、その中にご自分を現し、また潜んでおられることを教えてあげましょう。それだけではなく、すべてのものが神の内にあることも教えてあげましょう。私たちの神は、すべてのものを造り、すべてのものを超越し、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられるのです。(エペソ 4 : 6) 神は私たちの世界に満ち満ちておられ、私たち自身をご自分のうちに納めておられるのです。(使徒 17 : 28)

また、日本人は優しく恵み深い神を信じています。そして、キリスト教の神は恐ろしく、厳しい神だと思っている点をそっと訂正して上げましょう。そのように見えるのは、どこまでも頑固で悪いことばかりするユダヤ人を、何とか矯正しようとしている神の姿だからです。旧約聖書の大部分は、神にそむいてばかりいるイスラエル人を、何とか正しく導こうとして書かれた書物なのです。自然の中に見えない神を認め、「和をもって貴しとなす」と、優しく穏やかに暮らそうとして来た、日本人に向かって書かれた書物ではないのです。だから、旧約聖書に現れている神の姿は恐ろしいのです。そのように教えてあげれば良いのです。優しい母も、恵み深い父も、悪いことをした子を正しく教育するためには、厳しく恐ろしくなるのと同じです。

さらに、日本が神の祝福の下にあることを認めてあげましょう。神はこの国、この民族を愛し、昔から大切に守ってくださっていることを認めてあげましょう。そして、もっともっと祝福したいと願っておられることを、教えてあげましょう。

日本人は自分たちの神意識を大切にし、朝に夕に、また折に触れては感謝を捧げ、喜んで生きていることを神に見ていただこうと、祭りを行ってきました。すばらしいことです。でも、「なにごとのおわしますかは知らねども」と、感謝する相手、賛美する相手が、誰なのか分からないままに、そのようにしてきました。だから、きちっと相手を知ってするならばもっと素晴らしいとお話してあげましょう。

私たちクリスチャンが信じている神は、日本人が知らないまま感謝し、敬い、尊んできた神です。その神が、聖書によるならば、天と地をお造りになって、人間を生かして下さっている神、いのちの源である神なのです。この神に向かって感謝し、崇め、称え、お礼を言うように、励ましてあげましょう。そしてこの神に信頼して生きるように勧めて上げましょう。この神に信頼して生きることが、すなわち、信仰によって生きることなのです。